

第2部 子どもたちの命を守りたい

——沖縄と福島のお母さんの訴え

佐藤幸子さん（福島診療所建設委員会代表） 私たちは原発事故の直後、何度も文科省との交渉に行きました。その場では「20 ミシーベルトは基準ではありません」とはっきり言われました。そして、今回の新型コロナで学校を休校にするというニュースに驚きました。どうして9年前の原発事故の時には言ってくれなかったのでしょうか。

Aさん（他県に避難しているお母さん） 3・11のとき、どうすればいいのか分かりませんでした。全然情報がありませんでした。とにかく一人で悩んでました。そのとき、メールで文科省への要請行動の案内がきて、直前に決意して行きました。子どもの命を守るためには、やれることは何でもやろうという気持ちでした。

神谷武宏さん（宜野湾市の緑ヶ丘保育園園長） 2017年12月7日、米軍ヘリからの落下物が保育園の屋根に落ちました。ヘリの写真もあり、集音機にも記録があります。にもかかわらず米軍は否定しました。米軍ヘリの部品ではあるけれども、米軍が落としたものではないと。沖縄県警は調べたいと申し出たそうですが、日本政府はその必要



はないと。これまで三度上京して要請してきましたが、「米軍からの回答待ち」とか「調査中」とか、2年たってもそういう回答しかありません。ですからわたしたちの活動は止まりません。子どもたちの命を守るために活動しつづけていきます。

Bさん（緑ヶ丘保育園の園児のお母さん） 上京して署名を提出すればあとは国が引き受けてくれると思っていました。しかし、私たちの声はまったく届きません。これは基地の問題ですが、私たちにとっては命の問題、生活の問題です。福島も沖縄も、子どもたちを守りたいという同じ思いです。この活動はきついです。泣きたいときはいっぱい泣いて、でもまた笑顔で前を向いて、福島と沖縄、手を取り合い、子どもたちの明るい未来を一緒に作っていったらと思います。

チーム緑ヶ丘 1207

2017年12月7日、普天間基地に近接する宜野湾市緑ヶ丘保育園の屋根に米軍機の部品が落下した事件に対し、子どもの命と安全な空を求めて署名活動などを取り組まれています。

※ 集会報告DVDを作成しました。300円(送料込)。福島診療所建設委員会でも注文を受けつけておりますので、ご希望の方はご連絡ください。



新型コロナ対策に全力をあげよう

ふくしま共同診療所院長 布施 幸彦

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が全世界で猛威をふるっています。現在、世界の感染者334万9786人（死亡者23万8628人、死亡率7.1%）、日本の感染者1万1968人（死亡者510人、死亡率4.3%）。インフルエンザの死亡率は1%未満（日本は0.1%）なので、非常に危険なウイルスです。人に感染する「コロナウイルス」は、過去に6種類見つかっており、そのうち4種類は一般の風邪の原因となり、その多くは軽症ですみま。残る2種類は、2002年に発生した「重症急性呼吸器症候群（SARS）」（死亡率9.6%）と2012年以降発生した「中東呼吸器症候群（MERS）」（死亡率34.4%）で、今回の中国・武漢で初めて確認された新型コロナウィルスは7番目です。

日本では当初、空港や港などで水際作戦を行いました。しかし豪華クルーズ船で多数の感染者が発生し、それ以外の感染者も各地で発生しました。クルーズ船では乗客・乗務員ら3,711人中712人（19.2%）が感染し、13人が亡くなりました。横浜港に着いた時点で全員を下船させ、全国の感染防御の専門施設で隔離をしておけば、これ程の感染者が出なかった可能性が高いと思われます。感染が全国へ拡大するなか、安倍首相は「全国の学

校の休校、イベントの自粛」を要請し、3月13日には新型インフルエンザ特措法を改悪しました。

オリンピック優先し対策は後手に

感染拡大の防止よりもオリンピック開催を優先した安倍首相や小池都知事は、「オリンピック延期」が決定されるまで感染対策をないがしろにしてきました。「アベノマスク」「一律10万円給付」をめぐるドタバタは、安倍政権に任せていたら感染拡大を防ぐことも、労働者の生活を守ることもできないことを明らかにしました。安倍政権は4月8日、7都府県に緊急事態宣言を発し、ついで16日には全国に拡大しました。緊急事態を宣言すればすべての集会在禁止されることとなり、緊急事態条項導入という改憲へのステップでもあります。

社会保障削減が引き起こした医療崩壊

世界が新型コロナウイルスに十分に対応できなかった理由の一つに、医療費の削減があります。イタリアでは、感染者21万717人、死亡者2万8884人で死亡率は13.7%と非常に高くなっています。それは、医療体制の不備が原因だと言われています。EUから財政規律を課され、財政赤字と巨額累積債務を減らすため、医療費の削減が行われました。病院は効率化政策のもとで統廃合され、病床数は減少しました。早期退職と給与削減を進めた結果、医師不足を引き起こしました。そこに新型コロナの感染爆発が起こったのです。イタリアでは人工呼吸器の数が足りないために、70歳以



福島診療所建設委員会会計報告（18年10月～19年9月）

支出		収入	
人件費	840,000	前年度繰越金	14,485,320
交通費	1,597,130	基金・募金	13,832,537
通信費	911,980	立替金清算	125,790
会議費	6,400	利子	72
印刷宣伝費	638,280	雑収入	250
企画費	5,000		
税理士報酬	210,600		
事務費	124,168		
診療所融資	15,200,000		
立替金	159,870		
支払手数料	3,024		
次年度繰越金	8,747,517		